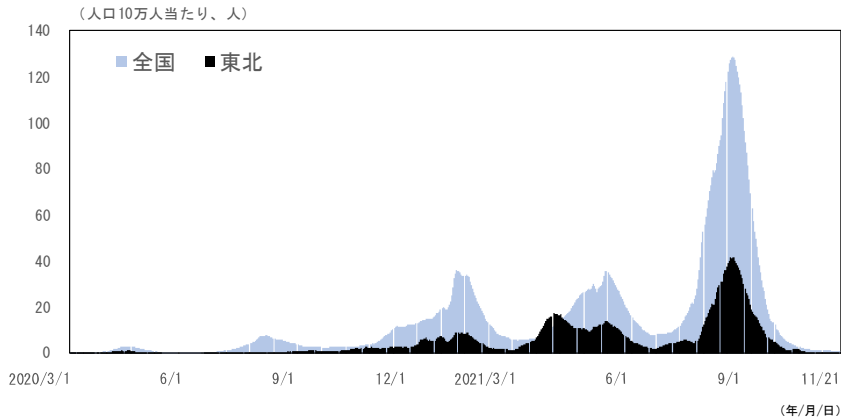




東北の人出をどのように理解するか

新型コロナウイルス感染症（以下、感染症）の新規感染者数は、2020年春以降、5回の増加局面を経て、足もとでは、東北6県（以下、東北）、全国ともごく低水準にある（図表1）。

（図表1）新型コロナウイルス感染者数の推移

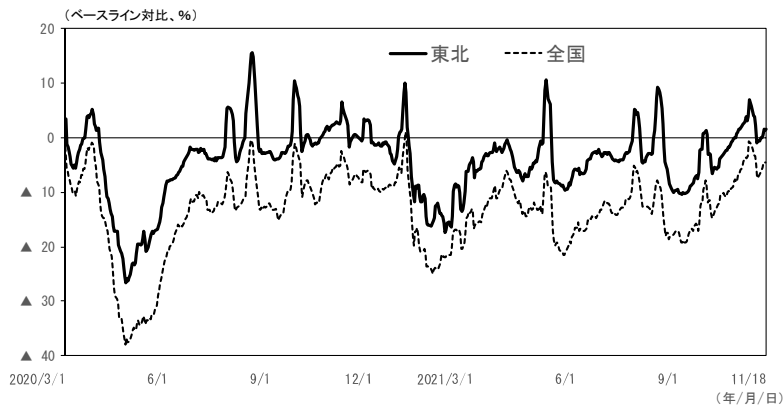


（注）全国の人口10万人当たりの感染者数は、全国の感染者数を総人口（総務省「人口推計」ベース、2019年10月1日時点）で除し、当日を含む直近7日間の人口10万人当たりの感染者数に引き直したものである。東北の人口10万人当たりの感染者数は、東北6県の感染者数を合計し、各県の人口（総務省「人口推計」ベース、2019年10月1日時点）を合計した値で除し、当日を含む直近7日間の人口10万人当たりの感染者数に引き直したものである。

（出所）NHK、「人口推計」（総務省）

これまで新規感染者数が増加した局面では、公衆衛生上の措置の発出に加え、人々の自主的な行動抑制によって、高頻度データでみた小売店・娯楽施設の人出（以下、人出）が感染症拡大以前（ベースライン）と比べて大きく減少する傾向が観察されている（図表2）。東北と全国を比較すると、全国的に新規感染者数が増加した局面において、東北の人出の減少度合い（ベースライン対比の減少幅）は、全国と比べて小さい（人出が抑制されていない）。この点は、東北の人々が、往々にして「慎重」「真面目」「我慢強い」と評されることや、感染症への警戒感が強いとの指摘が聞かれることを勘案すると、意外な印象がある。

（図表2）小売店・娯楽施設の人出の推移



（注）東北の“小売店・娯楽施設の人出”は、東北各県別のレストラン、カフェ、ショッピングセンター、テーマパーク、博物館、図書館、映画館などの訪問者数に、東北各県の2019年10月1日時点の人口を掛け目として加重平均したうえで、後方7日間移動平均したものである。ベースラインは、2020年1月3日～2月6日の平均値。

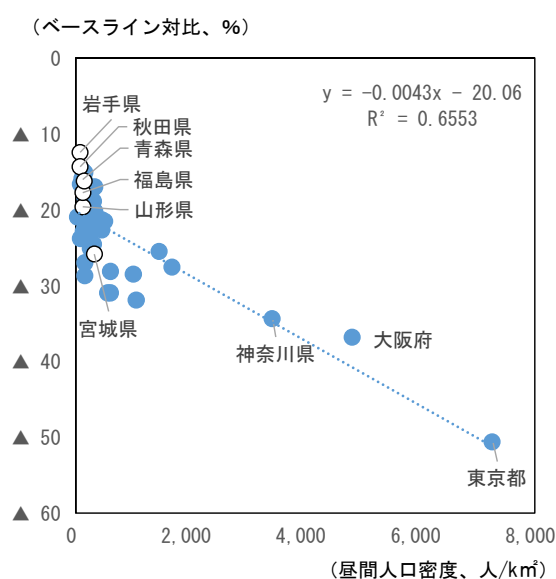
（出所）「人口推計」（総務省）、

“Google COVID-19 Community Mobility Reports” (Google LLC) (<https://www.google.com/covid19/mobility/>) . Accessed: 2021/11/22.

こうした東北の人出の動きを説明する要因としては、次の2つが考えられる。

第一の要因は、東北の人口密度、特に昼間人口密度が低いことである。感染症は人と人との接触で拡大するため、人口密度が高い地域ほど、感染者数が増えやすいほか、感染症対策として密集・密接の抑制が求められる度合いが大きくなる。事実、2020年春に新規感染者数が増加し、出勤率の抑制や大規模小売店舗の休業、県境を越える行動の自粛などが全国各地で強く要請された「第1波」について、昼間人口密度と人出の減少度合いとの関係を都道府県ごとに比較すると、右肩下がり——昼間人口密度が高い地域ほど、人出の減少度合いが大きい——傾向がみられる（図表3）。東北は、他の都道府県と比べて人口密度が低い分、抑制すべき密集・密接の度合いがそもそも小さかった結果、新規感染者数の増加局面でも、人出の減少度合いが全国と比べて小さくなったといえる。

（図表3）昼間人口密度と小売店・娯楽施設の人出の関係

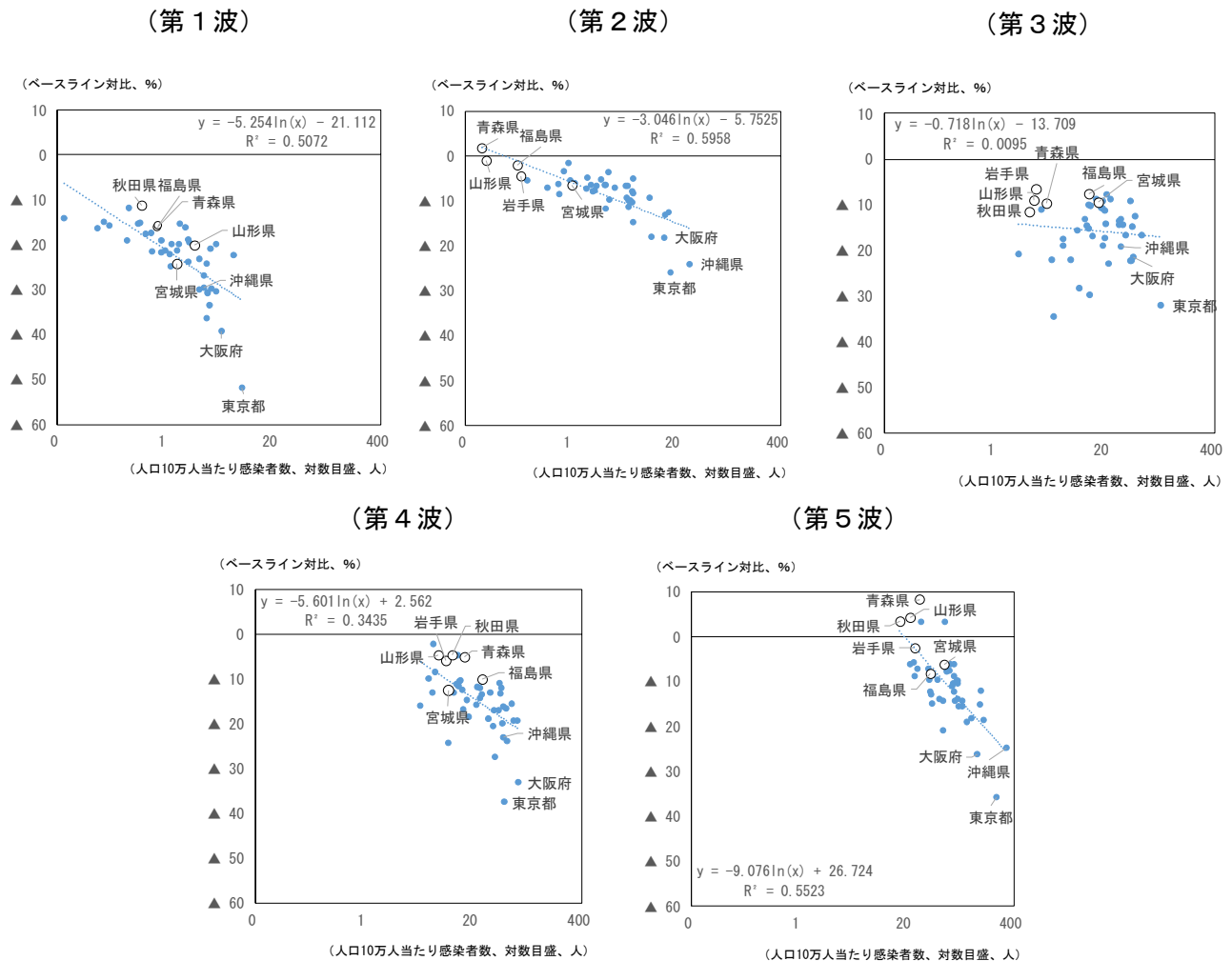


(注) 図表の縦軸は、2020年4月中の各都道府県における小売店・娯楽施設の人出（訪問者数）のベースライン対比の増減比の月間平均値。横軸は、2015年の各都道府県における昼間人口を各都道府県の面積（全域）で除した人口密度。

(出所) 「平成27年国勢調査結果」(総務省)、
“Google COVID-19 Community Mobility Reports” (Google LLC) (<https://www.google.com/covid19/mobility/>) .
Accessed: 2021/10/4.

第二の要因は、図表1が示すとおり、東北では、人口10万人当たりの感染者数が全国と比べて少なかったことである。2020年春以降に全国で新規感染者数が大きく増加した5回の局面について、新規感染者数と人出の減少度合いとの関係を都道府県ごとに比較すると、程度は区々ながら、いずれの局面でも右肩下がり——新規感染者数が多い都道府県で、人出の減少度合いが大きい——傾向がみられる（図表4）。新規感染者数が多いほど、公衆衛生上の措置が発出されたり、人々が外出をより抑制したりすることによって、人出が大きく減少すると考えられる。図表4をみると、東北は、いずれの局面でも都道府県の中で左上に位置していることが多い。東北では、前述した人口密度の低さに加え、「慎重」「真面目」な気質などが奏功し、新規感染者数が少なかった分、人出の減少度合いが小さなものにとどまったことが示唆される。

(図表4) 感染者数と小売店・娯楽施設の人出の関係



(注) 図表の縦軸は、各都道府県における小売店・娯楽施設の人出（訪問者数）のベースラインに対する増減比。横軸は、各都道府県における人口10万人当たりの感染者数（直近7日間平均）。データの基準日は、縦軸、横軸ともに東京都における各感染拡大期において感染者数（人口10万人当たりの直近7日間平均）が最大となった日とした。なお、ゼロの値は対数グラフ上正しく図示されないため、第1波では感染者数がゼロであった岩手県と徳島県を、第2波では秋田県と島根県を除いて図表を作成。

(出所) NHK、
 “Google COVID-19 Community Mobility Reports” (Google LLC) (<https://www.google.com/covid19/mobility/>) .
 Accessed: 2021/10/4.

先行きを展望すると、東北の人出、延いては個人消費は、引き続き新規感染者数の多寡に左右されるだろう。今後、ワクチン接種の普及などが奏功し、多少の振れがあったとしても、新規感染者数が比較的抑えられた状況が続けば、人々の活発な行動により東北の個人消費、特に対面型サービスがはっきりと持ち直してくることが期待される。

以上

本稿の執筆は、日本銀行仙台支店 坂田賢太と村山彰良が担当しました。
 本稿の内容について、商用目的で転載・複製を行う場合は、予め日本銀行仙台支店営業課 (022-214-3120) までご相談ください。転載・複製を行う場合は、出所を明記してください。
 なお、本稿で示された意見は執筆者に属し、必ずしも日本銀行の見解を示すものではありません。

▼日本銀行仙台支店HPへのアクセス

当店HPでは「経済の動き」を始め、東北経済に関する様々な情報を掲載しております。是非ご覧ください。